

# 全知P連だより

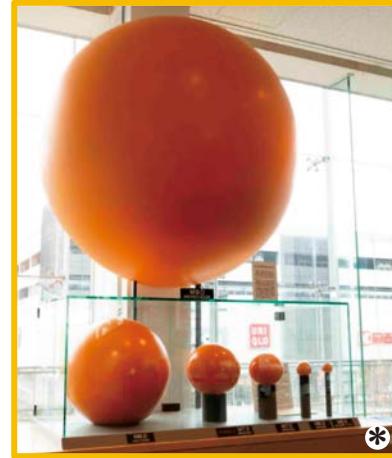
## 阪神・淡路大震災から30年の月日を経て

全国特別支援学校知的障害教育校PTA連合会 会長 富永 美和

2025年12月23日、災害を学び、防災・減災について考えることのできるミュージアム、阪神・淡路大震災記念『人と防災未来センター』を訪れました。

日本は、地震・台風・豪雨などのさまざまな自然災害と隣り合わせの国です。そして私たちには、日常の中で「防災・減災」に向き合い続ける責任があります。障害のある子どもがいると、非常食ひとつにも配慮が必要であり、生活のルーティンが大切な子どもにとって、災害時の対応を想像するだけで、「そのうち考えよう」と、つい後回しにしてしまうことも少なくありません。1995年1月17日 午前5時46分、兵庫県淡路島北部を震源とするマグニチュード7.3の地震が発生し、高齢化が進む大都市を直撃しました。6,400人を超える尊い命が失われ、多くの方が心身に大きな傷を負いました。あれから30年が経ち、時間の経過とともに、私たちの災害への意識は、少しずつ薄れてしまっているようにも感じます。その後も東日本大震災をはじめ、幾度となく大きな災害を経験しながら、「災害と共に生きる」という現実にいまもなお、向き合い続けています。

あの日の教訓を、記憶としてではなく「備え」として持ち続けること。それが、私たちにできることではないでしょうか。小さな一歩でも、家庭や学校で防災・減災について考え、災害時の対応を想像し、何が必要か、何ができるか考えてみましょう。



↑マグニチュードと地震のエネルギー  
マグニチュードが少し違うだけでも地震の大きさは全く違います。  
マグニチュードが【1】増えると地震のエネルギーは約32倍【2】増えると1000倍にもなります。  
(ケース内:M8・M7.3・M7・M6.3・M6)  
(ケース外:M9)



＊ 写真提供：人と防災未来センター



↑クエスチョンキューブ 映像没入型の空間で災害時の様々な場面のクイズに答え、命を守る最善の行動を学びます。

# 全国役員・都道府県代表者連絡協議会

令和7年11月22日(土) 品川シーズンテラス ホール

## 講 師

テーマ 知的障がいのある子どもとその家族を支える関係づくり



井上 雅彦 先生 鳥取大学大学院医学系研究科

1965年生まれ、山口県宇部市出身。  
筑波大学大学院修士課程を修了後、兵庫教育大学大学院准教授  
を経て、鳥取大学大学院 医学系研究科 臨床心理学講座 教授を務める。  
LITALICO研究所 スペシャルアドバイザー。  
ABA（応用行動分析学）をベースにエビデンスに基づく臨床心理学を目指し活動。  
対象は主に自閉スペクトラム症や発達障害のある人たちとその  
家族で支援のためのさまざまなプログラムを開発している。

## レクチャー

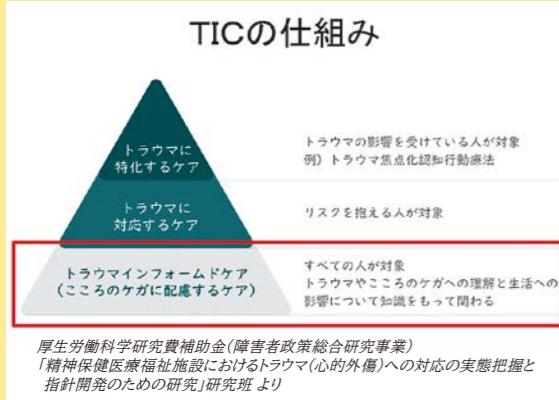
研修会のねらい 「知的障害のある子どもの保護者の葛藤を理解する」

※井上教授の講義資料より一部抜粋



### 「障害受容」?

- ・ゆきつもどりつ、「受容のゴール」があるわけではない
- ・障害受容の内的モデル(親の心がけ)では、親をとりまく環境要因から注意をそらしてしまう可能性もある
- ・理解や受容の仕方や速度はひとりひとり異なり、その歩調やその時々の状態にあわせて寄り添うことも必要
- ・メンターなどの当事者視点からの理解者の存在が孤立感をやわらげるかもしれない



### TICとは

- ・トラウマ・インフォームド・ケア(TIC)とは、支援者がトラウマに関する知識を持ち、その知識や経験に基づき、関わる人々に「トラウマがあるかもしれない」という視点で配慮した対応を行う支援の枠組み
- ・人々が経験する「こころのケガ(トラウマ)」の背景にある影響を理解し、再トラウマの予防や、本人の主体性を重視した支援を目指すもので、**トラウマの治療ではない**。

## 【全国役員・都道府県代表者連絡協議会とは】

当該年度の全国役員と都道府県代表者(知P連会長)を対象に、毎年11月を行っています。

テーマを設けた研修会と、情報交換を行います。

今年度協議会の参加者:全国役員19名、都道府県代表者25名、顧問1名、参与2名、事務局2名

## グループワーク

教員と保護者の混成グループ(1テーブル5~6名)をつくり、さまざまなワークテーマに沿って、  
それぞれの立場から考え、話し合いました。

### グループワーク

「こういう状況があるかもしれない」と  
想像してそれぞれの立場で考えてみる

- 1) 教師の立場から見えること・心配なこと
- 2) 保護者の立場から見えること・心配なこと
- 3) 子どもの立場で感じていそうなこと



### ロールプレイング

題目(例)

「学校に行かない、修学旅行に行かない…  
学校不適応の場面」

現実に経験するであろう場面を想定  
教員役、保護者役、オブザーバーに分かれて  
役割を演じ、類似体験を通して、ベターな  
対応、提案の仕方を考える



### アウトプット

グループで話し合った内容を、教員の立場や  
保護者の立場からの意見も含めてまとめ、  
グループの代表者が発表する



子どもたちの困りごとに伴う行動について、その前後の環境を踏まえ、  
どのような工夫や配慮が必要なのかをグループワークを通して学ぶことができました。  
改めて、保護者と先生との連携や関係づくりの大切さを実感しました。

～ご参加いただきました全国役員、都道府県代表者の皆様、ありがとうございました～

# 事務局からのお知らせ



## 令和8年度 調査研究助成事業

ただいま  
募集中

本会では、全国の各ブロック・都道府県 PTA 連合会・加盟校の単位PTAによる地域特性を生かしたPTA活動の推進、啓発（講演会や冊子制作等）や調査研究（アンケートや実態調査等）の活動を支援しています。

募集期間：令和8年1月15日～4月15日

選定機関：会長・副会長会において選定  
(令和8年5月29日)

選定数：3件まで

助成額：1件につき上限額40万円

★3月に今年度の調査研究助成事業に取り組んだ東京都立青鳥特別支援学校の報告書を各校に配布します。ぜひ、ご覧ください。



申請方法についてはこちらから→



## 令和8年度 全国研究協議大会 近畿大会（兵庫大会）

開催のお知らせ

日 時： 令和8年8月7日(金)  
10:00開会、16:00閉会  
(※1日開催)

開催形式： オンライン形式

★ 第二次案内は令和8年6月発送予定

第一次案内はこちらから→



## 理解啓発事業ウェブセミナー

配信中

令和8年3月31日17:00まで 視聴可能です。  
パスワードは、11月末に会員校へ配布した「ウェブセミナーのご案内」をご覧ください。

### 講演①

講 師：埼玉県立大学 名誉教授  
**朝日 雅也 氏**

テーマ：障害者雇用の現状と展望  
～共に働くことを実現する環境づくり～

### 講演②

講 師：一般社団法人 UNIVA 理事  
**野口 晃菜 氏**

テーマ：インクルーシブ教育の実現に向けて



配信はこちらから→



## 令和9年度 全知P連 予算要望書

本会では毎年度6月に、上部団体「全国特別支援教育推進連盟」を通して、予算要望書を文部科学省、こども家庭庁、厚生労働省へ提出しています。

そこで、令和9年度予算要望事項を作成するにあたり、できるだけ皆様の声が届くよう取りまとめて提出したいと考えております。

ご意見やご要望がございましたら、3月31日までに、都道府県知P連(特P連)を通して全知P連事務局までお寄せいただきますようお願ひいたします。



これまでの予算要望書はこちらから→

